

2-3. ねたてのまちベースミーティング、市民などへの取組み

取組み方針①：これまでのNBミーティングの取組みを踏まえ、今後の組織のあり方や支援の方法について検討を行う。

取組み方針②：市民に対し、跡地利用への興味関心を高めるため情報発信を行う。

(1) NB ミーティングの定例会活動支援

1) 取組み概要

NB ミーティングは、市民側の代表的な組織としてH18から約17年間継続活動してきているが、近年は参加者減少や議論停滞が続く状況となるため、昨年度末から今後の組織のあり方について定例会で意見交換を行ってきた。これまでの取組みの中で、市内各地域へ出向きフィールドワークなどの活動を進めたことで、新たな入会者も出たが、継続した参加にはつながらず、近年は参加者減少やそれに伴う議論停滞が続き、組織としての活動を維持することが難しい状況となっている。このため、事務局として検討した結果、会の取組みを一旦休止とし、組織再編のための整理期間に入ることが必要であるという考えに至り、休止について定例会で報告し意見交換を行った。

2) 取組みスケジュール

- ・1月17日(火) 令和4年度第1回定例会開催 今後の組織のあり方についての考えの報告
- ・2月13日(月) 全会員へアンケート実施
- ・3月16日(木) 令和4年度第2回定例会開催 アンケート結果を報告し休止

3) 休止後の取組み

①組織再編について

組織再編に向けて、新たな人材発掘等を促進する。これまでの情報発信(パネル展やワークショップ等)に加えて、新たに市内各種団体向けの啓発活動に取り組む等、定例会の活性化に寄与する新たな人材発掘を促進する。

②会員の皆様への情報発信について

会の休止期間中もNBミーティングの会員の方には市や団体等が主催するまちづくりに関する講座等の取組みについて情報発信する。



写真：定例会の様子①



写真：定例会の様子②

4) アンケート結果

全会員へのアンケートについて、WEB 回答者数が 4 件、郵送回答者数 2 件となった。回答結果は以下の通りとなる。

設問 1 これまで様々な活動に協力して頂きましたが、活動を通して良かったと感じる事や改善が必要だと感じた内容

会員①まちあるきや Gwave café でのガマの話などは知らない宜野湾を知れる機会になり、とても面白かった。宜野湾の未来を考える自分の意見の引き出しを増やせる機会になっていると思う。先進地視察会もとても勉強になった。個人的には仕事にも活かせるところがあるが、会の活動にはうまく活かしてきていないと思った。活動をしていく上で定例会は必要だし、本来は色々な意見や考え方があって様々な立場や職種、年齢の方が参加する市民の会であることは承知しているが、だんだん定例会の参加が苦痛になり色々な意見を知る楽しさを感じなくなってしまい、わざわざ仕事や用事の日程調整をしてまで参加しないといけないだろうか、と足が遠のいた。だからといってどう改善したらいいのか解決法はわからないが何かしら変更、変化、は必要なのかと思った。

会員②フィールドワークは親子で楽しめるのでよいと思う。ワークショップは中学生以上の若い方達に宜野湾の未来を語りあって欲しい。

会員③神山地区のフィールドワークに参加した。その時は、NB ミーティングメンバー、学生、自治会の方が参加し、意見交換も出来たので、大変意義深い内容だった。

会員④「定例会」市民会議を年間 12 回もやる必要があったのか。年 6 回くらいでもよかったのでは。「講演会」各自治会における講座を増やしたらどうか。市民が参加しやすいように「フィールドワーク」年 1 回ぐらいは必要かな「先進地視察会」視察しても市民にフィールドバックを更に行ってほしい。「イベント」パネルも更に多くの人に関心を持って頂く工夫が必要と思う。

会員⑤（良かった点）フィールドワーク、講演会、先進地視察会
（改善点）定例会→会の目的の共有認識がなされていない。否定的な意見が多く、参加の意欲を低下させている。

会員⑥要改善点について、

定例会: 一部のメンバーが One Issue で時間を使い果たしてしまい本来の議事が進まない場面があった、最後に提案する時間が無くなる会が度々ありました。会議の大体の時間割は決めておき、同じ内容の話が繰り返されたり、他のメンバーの話の話を遮るような場合に、司会が話を大きく要約して概ねの納得でもその場は次に進めるように段取りが取れるようにして欲しい。

先進地視察会: 日本のこの手の「視察」が事実上の観光旅行と称されるようなケースが多いらしく、例えば電子政府化に成功したエストニアだと視察に「日本人お断り」があったと聞いております。国内で受け入れ先も同様の理解があるので、これまでは問題にはならなかったと思います。

イベント（パネル展等）：小学生を集めるような時に、Minecraft で普天間飛行場跡地に街づくりをさせるようなイベントも考えられるのではないかと。市内の小中学生ならオンライン参加も可能とするなどコロナ禍でも出来たかも知れないと考えていた。

設問2 会の休止期間中もNBミーティングの会員の方には情報発信を行う予定となる。そこで、まちづくりに関する内容について、情報発信をご希望する取組み内容

会員①まちづくりに関する講座・講話

会員②真栄原の新町の空き店舗の活用を発信

会員③環境や状況が似ている地域、沖縄県内が参考になりやすいと思う。

会員④いつ返還されるのかまだわからない状況下では講座制にして会で運営した方がよい。定例会よりは人が集まるとは思いますが。イベント等については市長との対話等はどうか。

会員⑤まち未来課で進められていることを折々にでも情報を流してもらえたらと思う。

自由意見

会員①ちょうどコロナ禍と重なり、出席が難しくなりました。会員同士での、交流会のようなものが持てたら、良かったと思う。

会員②市民向けに取組んで欲しいこと等、すぐには回答がうかばない。いずれにしても長いスパンで検討して欲しい。1年間の講座制にして修了者に修了証を交付するなどまちづくりの入口あたりを見つけてもらいたいぐらいのレベルの講座制でいいのではないかな。

会員③会の運営のあり方に課題有り。参加者全員が発言できるようにコントロールが必要。

会員④現時点でNBミーティングの方々全員の意見が、まだ見えてないところだと思っています。これまでの会の進行に大きく貢献した方々が互いに合意のとれる内容での意思決定が可能であれば、それが望ましいと考える。

5) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●NB ミーティングの活動の方向性について

- ・昨年度から組織のあり方について定例会の中で議論が行われてきた。これまでの議論内容を踏まえて、事務局として今後の活動として休止し、組織再編を行うための整理期間とする方向性を定例会で示し、参加者から了承を得ることができた。そして、定例会での意見交換やアンケートを通して、これまでの会の活動について良かった点や改善が必要な点をお聞きすることができた。

【今後の課題】

●取組み内容の充実について

- ・今後も市民を対象とした、跡地のまちづくりに関する取組みを行い、新たな人材発掘等を促進する。NB ミーティング会員から得られた取組みの改善点を踏まえ、検討を行い、内容の充実を図り、興味関心の向上に繋げることが必要である。

(2) 市内各組織に対する跡地利用計画検討に関する情報発信及び広報

「普天間飛行場跡地利用に係る各種団体懇談会」

1) 開催概要

普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた取組内容に関する情報共有と、返還後のまちづくりに対する機運を高めることを目的として、市内各種団体を対象とした懇談会を開催した。

2) 実施概要及び議事要旨

○実施概要

① 日 時 : 令和5年1月25日(水) 19時00分～20時30分

② 会 場 : 宜野湾市中央公民館3階 第二研修室

③ 出席者 : 長堂 昌太郎 宜野湾市商工会会長
宮本 信弘 宜野湾市老人クラブ連合会会長
宮園 峰子 宜野湾市婦人連合会会長
崎原 美智子 宜野湾市女性団体連絡協議会会長
伊波 稔 宜野湾市自治会長会会長
友利 亘 宜野湾市PTA連合会副会長
知名 朝弥 宜野湾市青年会連合会会長

《事務局》

又吉 直広 宜野湾市基地政策部 次長兼まち未来課 課長
永山 拓朗 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長
高良 夏美 宜野湾市基地政策部まち未来課
石井、崎山(昭和株式会社)

④ 議 題 : 1. 普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組状況等について
2. 質疑応答、意見交換

⑤ 配布資料 : ・令和4年度 普天間飛行場跡地利用に係る市内各種団体懇談会 次第
・資料①: 跡地利用計画に係る市内各種団体懇談会資料
・参考資料: パンフレット(全体計画の中間取りまとめ(第2回))



写真: 懇談会の様子①



写真: 懇談会の様子②

○意見概要

<p>長 堂 (市商工会会長)</p>	<p>私見であることを前置きするが、なぜ跡地の中心に広大な公園をつくるのか疑問である。大規模災害時の避難場所が必要なことは分かるが、基地がなくなったとしてもこの計画では引き続き跡地を迂回する生活を送ることになる。将来、高齢化により空家が増えるため、その土地を活用して地域ごとに公園が整備される可能性もある。また、車で5分圏以内の近隣市町村には既に大きな公園が存在している。これだけ広大な土地には人が働く場所、人が集う場所を多く整備して経済的な有効活用をするべきである。跡地を活用して、旧市街地の密集状況が解消できないか。夢を描くというのであれば、地下にまちを整備し、地下空間を有効活用する発想はできないのか。私たちの年齢や知識の範囲でまちづくりを語ることは問題があり、将来住む人の年齢層や周辺の状況を想定して内容を固めていく必要がある。若者が夢を持てるまちをつくっていただきたい。</p>
<p>長 堂 (市商工会会長)</p>	<p>宜野湾市商工会は、商工会議所への移行を準備している。商工会議所になれば、勉強会・研究会等幅広い活動ができ、組織として県や市に意見を述べるができるようになる。組織的に成熟するまで10年程度要するため、次世代のことを考えて早めに動く必要があると考えている。</p>
<p>長 堂 (市商工会会長)</p>	<p>資料①P5で、現在返還されていない基地が返還された場合の経済効果を載せているため、新都心やアワセなど返還された跡地事例と比較するほうがよい。普天間飛行場よりも、国道58号に面している牧港補給地区の方が、経済効果が大きいのではないかと。雇用がどうなるなど、返還後の経済効果を分かりやすく具体的に示してほしい。</p>
<p>宮 本 (市老人クラブ連合 会 会 長)</p>	<p>商業施設を核にしたまちづくりをした場合、みな同一のまちづくりになる。結局新しいまちに人が流れていくだけのため、心配である。緑が多く、公園があり、住宅があり、その中に商業地があるまちの方が暮らしやすいし、孫や将来の人達のためになる。今後の少子化を考えると、空き家は増加する。地主は同じようなマンションやビルを建てることを考えがちであるため、まず地主に跡地利用計画の内容を理解させることを考える必要がある。まちづくりのスタートであるため、「緑の中のまち」の空間をつくることのできる。途中からでは作れない。地主は土地を売るよりも自己活用したい人が多い。結局主体は地主となるため、地主の理解が必要である。また、出前講座や各種団体への説明会を多く開催し、市民全体の機運を盛り上げないと跡地利用計画は進まない。各種団体への説明会を多く持つてほしい。</p>
<p>宮 園 (市婦人連合会 会 長)</p>	<p>資料①P10の「世界に誇れる」という言葉は、宜野湾に未来があると思えるため、非常に気に入った。 はごろも祭りの前にはコンテストがあり、そこでは子供達が「普天間基地がこうなったらいいな」というような絵を描き、ポスターにして市民の意</p>

		識を高めていた。よい取組である。
崎 (市女性団体連絡 協議会会長)	原	若い人たちが10年、20年住んでいて良いなと思えるまちになってほしいため、子供たちが遊ぶ場所や緑があることは非常に良いと考える。現在、プランター設置禁止のマンションもあり、家庭菜園を行うことが難しくなっている。婦人会としては緑を植えていこうという取組みを4、5年前から行っている。 普天間飛行場の面積は宜野湾市の4分の1を占めることが今回分かったため、我々の意識を高める必要があると思った。 県民フォーラムのアンケート回答について、10代、20代の回答者が少ない。将来普天間に住むこととなる若者に、もっと意見を聞いてほしいと考える。
崎 (市女性団体連絡 協議会会長)	原	資料①P9について、鉄軌道として ترامが現実的でないのは理解しているが、未来を見据えて将来構想の中に盛り込んでいただきたい。中部縦貫道路と鉄軌道はルートが重複しているように見えた。そうであれば、なぜ跡地内を周遊する ترامを検討しないのか。
崎 (市女性団体連絡 協議会会長)	原	千葉県のおおたかの森駅は、緑の中にショッピングモールがあって、スケールが大きくてゆったりして非常に良い。そのため、街中の所々に公園が配置されていることが良いと考えている。近くに緑があり、皆が集まることができるということが大事であり、1箇所だけでは単なる森となってしまう。
崎 (市女性団体連絡 協議会会長)	原	学生や会社員は、コワーキングスペースを求めているのではないか。これからの潮流を考えながら、まちづくりを検討する必要がある。
長 (市商工会会長)	堂	MICEについても検討していただきたい。ホテルに宿泊して公園を散歩できると、観光にもつながる。最近新聞に掲載されていた、吉本興業の笑いや音楽のまちづくりの取組みも参考に、将来のまちづくりを検討できないか。集まって楽しめる拠点として、緑の中にあるまちは夢があって良いと考える。
事 務 局		新聞掲載の件については、吉本興業が実施するのではなく、韓国の事例の紹介である旨を申し添えたい。
伊 (市自治会長会 会長)	波	市民に対する周知は、学校で未来まちづくりに関する授業を設けて、子どもたちに将来のまちを意識させることが重要である。自分達の世代で計画したまちが完成した時、未来の時代におけるまちづくりの考え方や齟齬が生じることを懸念している。子ども達の意見を取り入れ、彼らの暮らしやすいまちづくりを実現していただきたい。また、基地内には多くの文化財が残されているため、各自治会の方々が納得できるよう文化財の調査研究

	をしっかりと行っていただきたい。
友 利 (市PTA連合会 副会長)	<p>本日初めて普天飛行場跡地利用計画の説明を聞き、将来のまちの姿が想像でき嬉しくなった。このように、楽しみながらまちづくりを構想する経験を子供達にもしてもらいたいと考えている。本日のような説明を行えば、想像が膨らむと考える。世界に誇れる宜野湾市になるためには、この土地にしかない文化財が重要となるため大事に保存して、子ども達に伝えていただきたい。</p> <p>宜野湾にはヨットハーバーがあるため、世界から観光客を受け入れることができる。観光振興のためにも環境のためにも、鉄軌道は重要である。</p>
友 利 (市PTA連合会 副会長)	子供達への様々な働きかけは、PTAとして協力したい。
知 名 (市青年会連合会 会長)	<p>青年会では、普天間飛行場跡地の利用計画が検討されていることを誰も知らなかった。事前に青年会で意見を聞いたところ、現在は市外に出て飲食したり遊んだりしているため、市内で飲んで遊べる場所がほしい、飛行場跡地を横断（縦断）する道路がほしいという意見があった。</p> <p>基地の中の文化財の保存方法が気になったため、大事にしていきたい。</p>
知 名 (市青年会連合会 会長)	アンケート回答者に若い世代からの回答が少ない理由としては、一般に周知されていないからであると考えている。若い世代の意見は大切であると考えているため、今後、青年会のリーダー研修のメニューに入れることも考えている。
長 堂 (市商工会会長)	宜野湾市は1万人近くが市外で働いていると伺ったことがある。人口が増えるならば、働く場所を増やしていただきたい。また、緑をうまく利用して、公園がビジネスになるような発想が必要である。
宮 本 (市老人クラブ連合 会 会 長)	大規模公園は市が管理するのか。
事 務 局	国営公園として、国に管理していただきたいと考えている。
宮 本 (市老人クラブ連合 会 会 長)	<p>公園を活用する方法を実験的に色々試してみてもどうか。市内外から遊びに訪れるようになれば、公園のイメージが変わってくるのではないかと。</p> <p>長期間基地として米軍に土地を提供してきたため、宜野湾市の戦略として国の責任で公園を管理してもらいたいと考える。</p> <p>国営公園になると、靖国神社、新宿御苑のように全面公園になるのではないかと懸念がある。</p>

<p>事務局</p>	<p>宜野湾市の魅力は湧水である。湧水は基地内に存在する緑から浸透したもので、地下ダムが3箇所現存する。今後の開発でこれらの緑をなくした場合、湧水が枯渇することが懸念されるため、100ha程度の緑を残すことが必要と考えている。また、国営公園は通常1県に対して1園である。ところが沖縄には、海洋博記念公園と首里城公園の2園が存在しているため、3園目も可能ではないかと考えている。</p>
<p>宮本 (市老人クラブ連 合会会長)</p>	<p>長期間基地として使用されてきた沖縄に「各県1園」を当てはめるのはおかしい。従来の国営公園のようなイメージではなく、別の形を検討すれば良いと考える。</p>
<p>長堂 (市商工会会長)</p>	<p>東京都では、公園の中にホテルを建設している事例もあるので研究していただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>若い人達に対する周知は必要であり、意識も徐々に高めていく必要がある。今後も継続した意見交換の場を持ちたい。小学校における取組も今後出てくるものと考えている。本日いただいた課題、宿題等については今後調査できればと考える。</p>
<p>事務局</p>	<p>緑のイメージ戦略がないと、人によって感じ方が異なってくるため、しっかりと示していきたい。</p>

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●将来の継続した議論に繋げる場づくりについて

- ・今回、市内各種団体の代表が一堂に会して意見交換を行うことで、将来の継続した議論に繋げていくためのキックオフミーティングとしての役割を果たすことができた。

●市内各種団体を対象とした意向醸成活動について

- ・意見交換を進めていく中で「PTAとして協力は可能」、「青年会の研修メニューに盛り込むことも検討できる」など積極的な意見が挙げられたことから、市内各種団体との連携に繋がるきっかけづくりができた。

【今後の課題】

●継続した懇談会の開催

- ・今回はキックオフミーティングであったため、参加者も新鮮味があり様々な考えや意見を交換することができた。今後も引き続き懇談会を開催する場合は、意見交換テーマや議論の内容に興味を持たせるようにする必要がある。

●新たな若い世代の人材掘り起し

- ・今後、懇談会を継続して開催するにあたって、返還後のまちづくりの担い手となる若い世代の人材掘り起しを視野に入れて取り組む必要がある。

(3) イベントの企画・開催

1) 開催概要

跡地利用に関する情報や行政の取組みについて周知を図るため、全世代を対象としたパネル展を開催した。

パネル展については、世代ごとに集まる場所も異なることを考慮して、会場を4つ設定しキャラバン形式で展示し、多くの方の観覧を目指した。

	期 間	開催場所
第1回	1月16日(月)～23日(月)	沖縄国際大学
第2回	2月1日(水)～8日(水)	市立博物館
第3回	2月10日(金)～20日(月)	市民図書館
第4回	2月24日(金)～3月3日(金)	宜野湾市役所

① 沖縄国際大学

○開催日時：2023年1月16日(月)～1月23日(月)

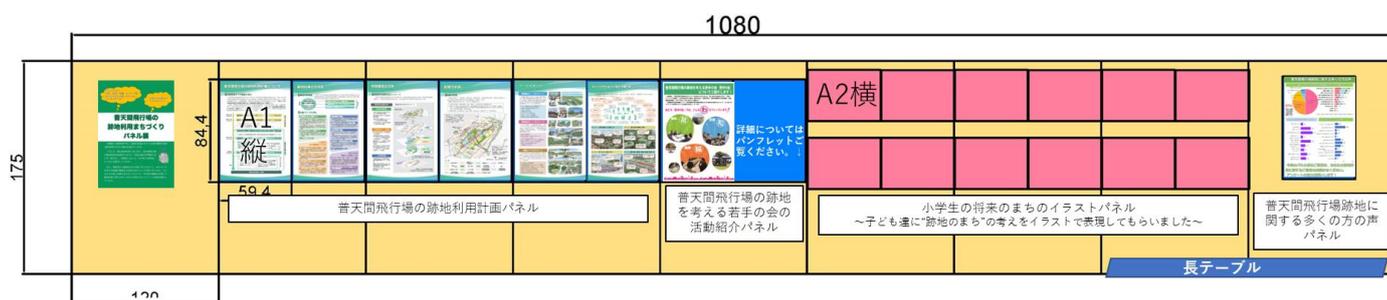
○開催場所：沖縄国際大学

○内 容：普天間飛行場の跡地利用計画紹介パネル
若手の会の活動紹介パネル
小学生跡地のまちづくりイラストパネル
各世代のアンケート結果

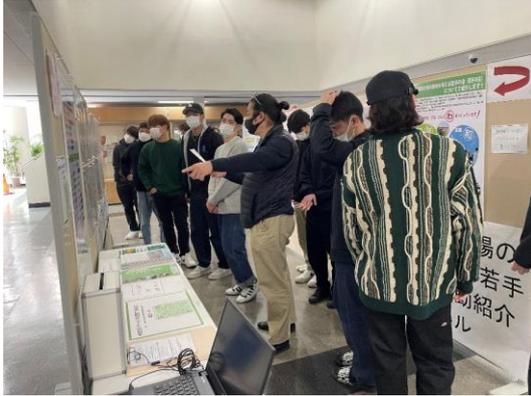
○アンケート回答者：40名

○来 場 者：(参考) 227名

【レイアウト】



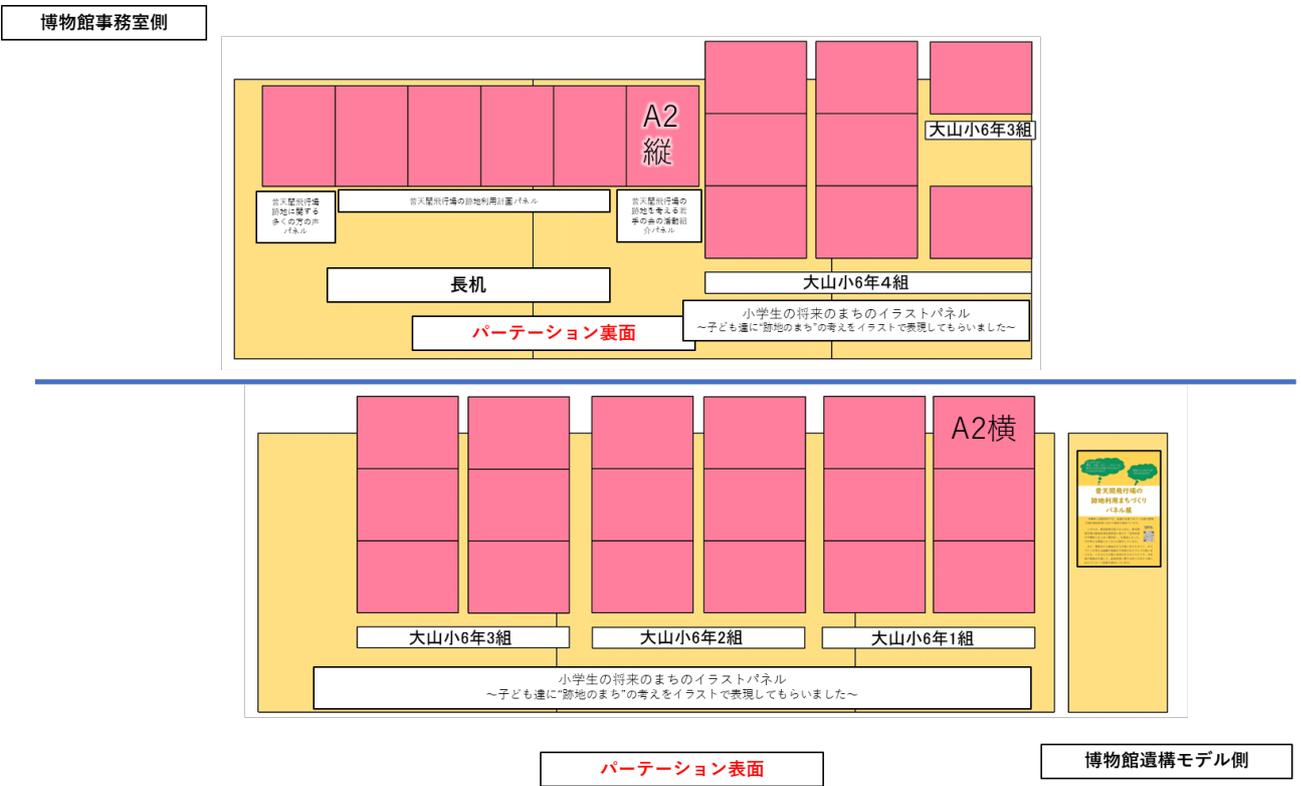
【パネル展の様子】



②宜野湾市立博物館

- 開催日時：2023年2月1日（水）～2月8日（水）
- 開催場所：宜野湾市立博物館
- 内 容：普天間飛行場の跡地利用計画紹介パネル
若手の会の活動紹介パネル
小学生跡地のまちづくりイラストパネル
各世代のアンケート結果
- アンケート回答者：5名
- 来 場 者：(参考) 246名

【レイアウト】



【パネル展の様子】



③宜野湾市民図書館

- 開催日時：2023年2月10日（金）～2月20日（月）
- 開催場所：宜野湾市民図書館
- 内 容：普天間飛行場の跡地利用計画紹介パネル
若手の会の活動紹介パネル
小学生跡地のまちづくりイラストパネル
各世代のアンケート結果
- アンケート回答者：8名
- 来 場 者：(参考) 151名

【レイアウト】



【パネル展の様子】

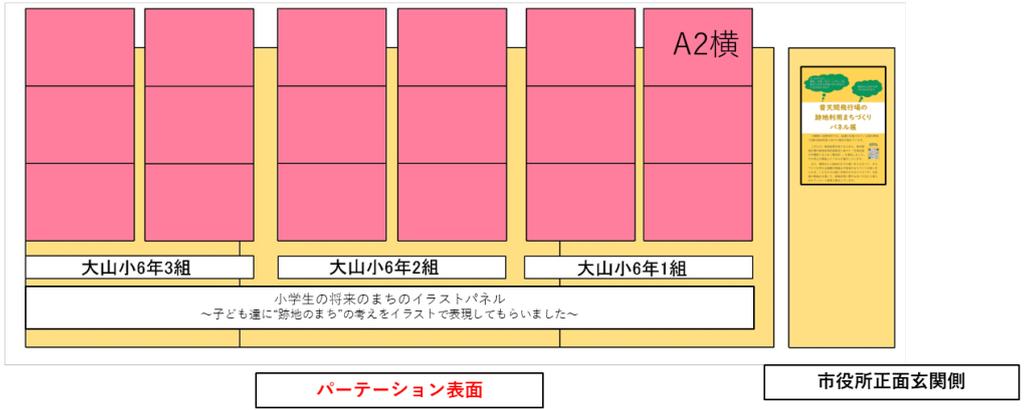
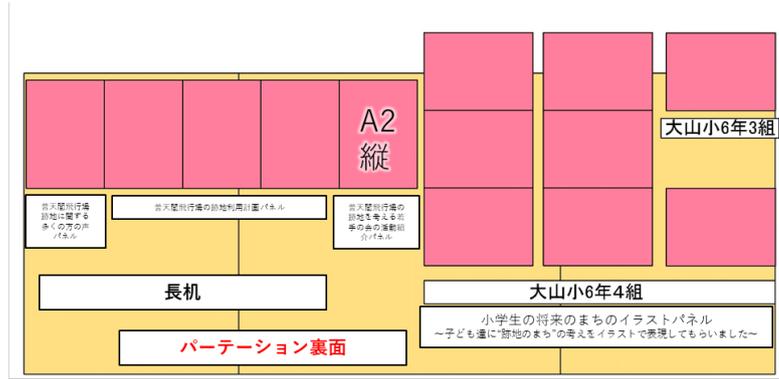


④宜野湾市役所

- 開催日時：2023年2月24日（金）～3月3日（金）
- 開催場所：宜野湾市役所
- 内 容：普天間飛行場の跡地利用計画紹介パネル
若手の会の活動紹介パネル
小学生跡地のまちづくりイラストパネル
各世代のアンケート結果
- アンケート回答者：3名
- 来 場 者：(参考) 137名

【レイアウト】

市役所正面玄関側



【パネル展の様子】



2) 展示パネル

パネルについては、学生向けと、全世代向けの2種類を用意した。

●活動紹介パネル 展示内容一部（沖国大開催用）



普天間飛行場の 跡地利用まちづくり パネル展

沖縄県と宜野湾市では、返還が合意されている普天間飛行場の跡地利用に向けた検討を進めています。

このたび、検討結果を取りまとめた、普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」を策定しました。その考えを解説したパネルを展示しています。

また、県民・地権者の皆さまへの意向醸成の取組みの紹介として、跡地のまちづくりを考える地権者組織の取組みや将来のまちづくりの担い手である子どもたちが描いた将来のまちのイラスト、今年度の取組みを通じて得られた跡地利用に対する皆さまの声を展示しております。

普天間未来平野園中
みんなで考え、動き出している跡地利用計画のようすを動画でご覧いただけるサイトです。

【看板】

普天間飛行場の跡地を考える若手の会（若手の会） についてご紹介します！

本組織は、「普天間飛行場跡地のまちづくりを成功させるためには、若い世代が主体的に考え、行動していくことが重要」との地主会等から要請・期待を受け、宜野湾市の「関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務」の中で平成14年に発足した組織です。

地権者側の提言組織として、普天間飛行場の跡地利用に対する意見を発信することで、より良いまちづくりを実現することを活動の目的としています

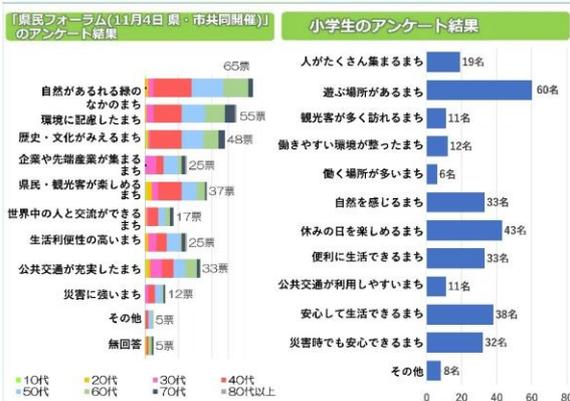
私たち「若手の会」では、こんな「わ」をつくっています！



【普天間飛行場の跡地を考える若手の会紹介】

2-3 (4) 市内小中学校において児童・生徒へ向けた出前講座において、大山小学校6年生が作成したイラストも一部展示した。

普天間飛行場跡地に関する多くの方の声



今回のパネル展をご覧頂き、あなたの跡地利用に関するご意見もお聞かせください。
アンケートの協力をお願いします！

【アンケート結果紹介】

●活動紹介パネル 展示内容一部（宜野湾市博物館、宜野湾市民図書館、宜野湾市役所開催用）

もしかすると、... 増森、生活・仕事・レジャー等、 私たちもまちの使い手となることもあるのでは？

将来どんなまちができるのかな？

普天間飛行場の跡地利用まちづくりパネル展

沖縄県と宜野湾市では、返還が合意されている普天間飛行場の跡地利用に向けた検討を進めています。

このたび、検討結果を取りまとめた、普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」を策定しました。その考えを解説したパネルを展示しています。

また、県民・地権者の皆さまへの意向醸成の取組みの紹介として、跡地のまちづくりを考える地権者組織の取組みや将来のまちづくりの担い手である子どもたちが描いた将来のまちのイラスト、今年度の取組みを通じて得られた跡地利用に対する皆さまの声を展示しております。

普天間未来予想図HP
みんなできえ、巻き出している跡地利用計画のよさを動画で知ることができます。→

【看板】

普天間飛行場の跡地を考える若手の会（若手の会）についてご紹介します！

本組織は、「普天間飛行場跡地のまちづくりを成功させるためには、若い世代が主体的に考え、行動していくことが重要」との地主会等から要請・期待を受け、宜野湾市の「関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務」の中で平成14年に発足した組織です。

地権者側の提言組織として、普天間飛行場の跡地利用に対する意見を発信することで、より良いまちづくりを実現することを活動の目的としています

私たち「若手の会」では、こんな **わ** をつくっています！

探究の話し
このまちをどうにかしたい、という思いを共有し、話し合っています。

交流の和
いろいろな世代、職業の人と交流し、お互いを理解し合っています。

連携の輪
地権者、行政、市民、企業など、様々な関係者と連携し、まちづくりを進めています。

【普天間飛行場の跡地を考える若手の会紹介】

普天間飛行場跡地に関する多くの方の声

【県民フォーラム(11月4日 県・市共同開催)のアンケート結果】

自然がある緑のなかのまち	65票
環境に配慮したまち	55票
歴史・文化がみえるまち	48票
企業や先端産業が集まるまち	25票
県民・観光客が楽しめるまち	37票
世界中の人と交流ができるまち	17票
生活利便性の高いまち	25票
公共交通が充実したまち	33票
災害に強いまち	12票
その他	5票
無回答	5票

小学生のアンケート結果

人がたくさん集まるまち	19名
遊ぶ場所があるまち	60名
観光客が多く訪れるまち	11名
働きやすい環境が整ったまち	12名
働く場所が多いまち	6名
自然を感じるまち	33名
休みの日を楽しめるまち	43名
便利に生活できるまち	33名
公共交通が利用しやすいまち	11名
安心して生活できるまち	38名
災害時でも安心できるまち	32名
その他	8名

大学生のアンケート結果

災害に強いまち	6名
公共交通が充実したまち	26名
生活利便性の高いまち	31名
世界中の人と交流ができるまち	6名
県民・観光客が楽しめるまち	26名
企業や先端産業が集まるまち	12名
歴史・文化が見えるまち	9名
環境に配慮したまち	17名
自然がある緑のなかのまち	14名

今回のパネル展をご覧頂き、あなたの跡地利用に関するご意見もお聞かせください。アンケートの協力をお願いします！

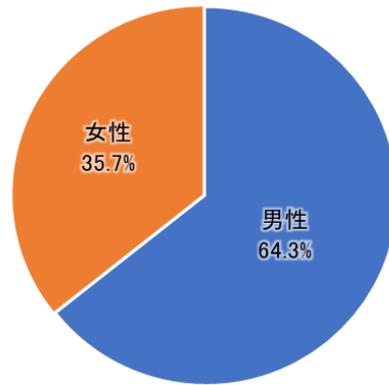
【アンケート結果紹介】

2-3 (4) 市内小中学校において児童・生徒へ向けた出前講座において、大山小学校6年生が作成したイラストも全て展示した。

3) アンケート結果 (4 か所まとめ)

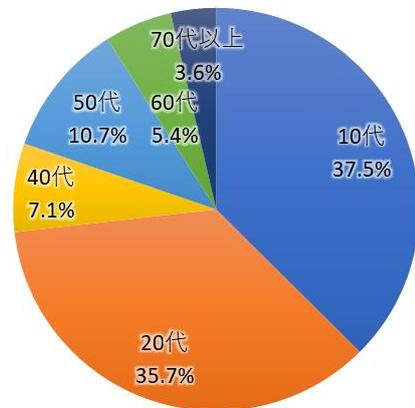
Q1-1.あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
男性	36	64.3%
女性	20	35.7%
無回答	0	0%
計	56	100.0%



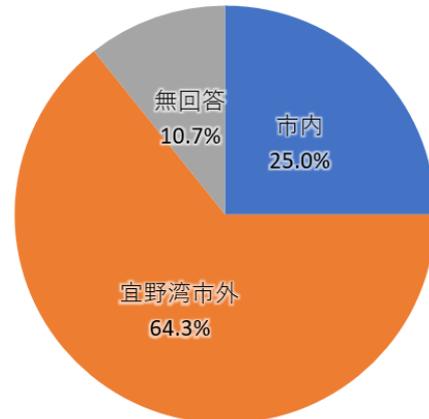
Q1-2.あなたの年齢を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
10代	21	37.5%
20代	20	35.7%
30代	0	0%
40代	4	7.1%
50代	6	10.7%
60代	3	5.4%
70代以上	2	3.6%
無回答	0	0%
計	56	100.0%



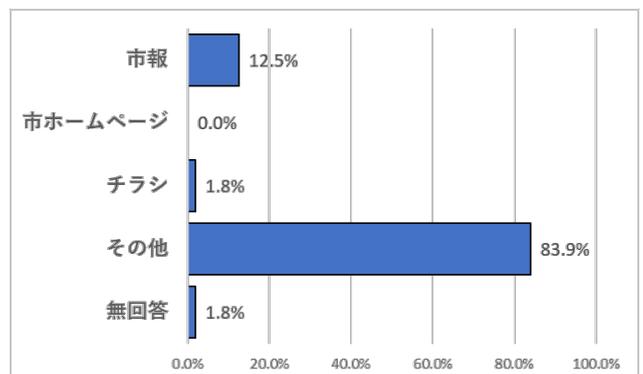
Q1-3.あなたの住まいを教えてください。

選択肢	回答数	構成比
宜野湾市内	14	25.0%
宜野湾市外	36	64.3%
無回答	6	10.7%
計	56	100.0%



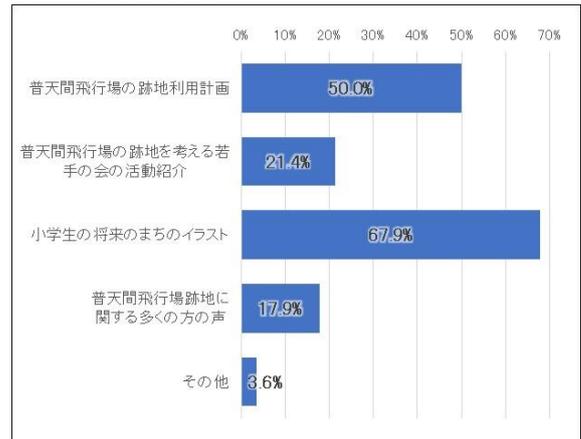
Q2.今回のイベントを何で知りましたか。(複数回答可)

選択肢	回答数	構成比
市報	7	12.5%
市ホームページ	0	0%
チラシ	1	1.8%
その他	47	83.9%
無回答	1	1.8%
計	56	—



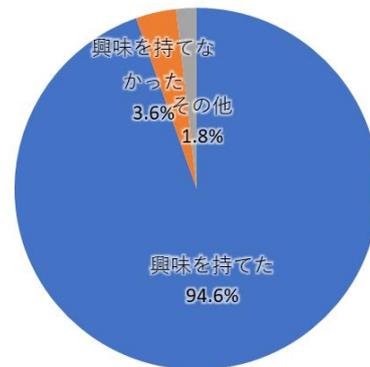
Q3. 展示パネルで良かったと思う内容を教えてください。（複数回答可）

選択肢	回答数	構成比
普天間飛行場の跡地利用計画	28	50.0%
普天間飛行場の跡地を考える若手の会の活動紹介	12	21.4%
小学生の将来のまちのイラスト	38	67.9%
普天間飛行場に関する多くの方の声（アンケート結果公表）	10	17.9%
無回答	2	3.6%
計	90	—



Q4-1. 普天間飛行場返還後のまちづくりへの興味に繋がりましたか。

選択肢	回答数	構成比
興味を持てた	53	94.6%
興味を持てなかった	2	3.6%
その他	1	1.8%
無回答	0	0%
計	56	100.0%



Q4-2. 興味を持てた理由（記述）

- ・ 基地がなくなると交通の便がよくなる。
- ・ 普天間飛行場返還後の町の様子がイメージすることができたから。
- ・ 可能性のある町だと思えたから。
- ・ 返還後の跡地をどのように利用して、沖縄の振興につなげるのかについての意見を知ることができたから。
- ・ 土地が広いし、大学に近いためいろいろな施設を作ってほしいから。
- ・ 今後大きくなって活動するかもしれない小学生たちの案も取り入れてみると面白い。
- ・ 返還後どんな街になるか楽しみになった。
- ・ 具体的なイメージが湧いた。
- ・ とても大切なことだから。
- ・ 今後の沖縄の都市化によって良い場所の一部になると思うため。
- ・ 授業で、街の問題を解決する企画案を作っていたため、子供の純粋な発想が刺激になったから。
- ・ 返還後の緑化など、画期的だと思えることを知ることができた。
- ・ 普天間基地が無くなった後の沖縄を想像できたのでよかった。
- ・ 様々な構想を、小学生の視点で見れたから。
- ・ パネルも分かりやすく理解しやすかった。
- ・ 基地の跡地利用について初めて知ることができ、もっと調べてみたいと思ったから。
- ・ 駅と道路の配置をどのように組み合わせているのか。さらにその前提として市民の安心と安全をどのように考えているのかが伝わってくる。
- ・ 子ども達も色々なことを考えていることに驚いた。
- ・ 子供から大人までまちづくりについて考えており良いと思った。

Q5.その他、ご意見等（記述）

- ・初めてこの若手の会というものを知った。跡地利用と併せて沖縄の基地問題の関連もあれば見たり聞いたり参加したりしたい。
- ・それぞれに過ごしやすいまち宜野湾を思考しており面白いと思った。
- ・普天間飛行場の跡地は商業施設に利用した方が良いと思う。町の中の人数が増えると、経済効果が期待できると思う。
- ・市民に寄り添った施設をつくる。（大型スーパー等）
- ・跡地利用が実現できたら地域の方だけでなく県民も喜ぶと思うため、ぜひこの取り組みを頑張ってもらいたい。
- ・大学の周りに娯楽施設が少ないので映画館やボウリング場など、大学の空きコマで行ける場所が欲しい。
- ・若者からの意見やアイデアが反映されることはとても良いと感じた。
- ・住みやすい住宅街が良いと思う。
- ・跡地を利用して良いまちになってほしい。
- ・米軍基地に隣接する沖縄国際大学でパネル展を開催する意義は大きいと感じる。沖縄国際大には米軍のヘリコプターが墜落炎上した事故も発生しており平和利用への返還により早期のまちづくりが急務と考える。
- ・交通公共機関、特に電車の発展を推進したい。その方が効率よく遅延せずに移動出来ると思う。
- ・米軍跡地予定の場所には、沖縄の歴史的に重要な遺産が多く残っているため、歴史的な場所、物を積極的に残して欲しい。その上でスマートシティの計画案を考えて欲しい。
- ・「若手の会」の参加啓発が目的と説明を受けたが、会の様子、SNSやWEBのQRコード、懇親会の予定なども掲示した方が興味関心を持ちやすいと思う。
- ・毎年開催した方が良い。
- ・普天間基地というと県外移設か県外移設かといった話はよく話題になったりするが、移転後のことはあんまり考えてなかったなと思った。返還後にこんないいまちができたらいいなと思った。

4) 取り組み成果と今後の課題

【取り組み成果】

●若い世代への情報発信ができた

- ・これまで若い世代の観覧者が比較的少ない状況であったが、沖縄国際大学でパネル展を開催したことで、10代、20代の若い学生への情報発信ができた。また、学生から多くの意見を頂き、跡地利用に興味があることも把握できた。

【今後の課題】

●情報発信の充実を図る

- ・アンケート結果から、普天間飛行場返還後のまちづくりへ興味を持ってたと回答した方の割合が9割以上となっており関心の向上が図られたが、興味を持ってなかったと回答した方の中には「結局どうなるかわからない」といった意見があったことから、次回は跡地利用を考える目的を分かりやすく工夫して伝えるパネルを加えることや、更に多くの方が観覧できる会場を見つける等、情報発信の充実を図る必要がある。

(4) 市内小中学校において児童・生徒へ向けた出前講座の企画・開催

1) 目的

普天間飛行場跡地利用について、これまでの取組み内容を紹介し、児童・生徒に返還後のまちづくりについて考えてもらう機会を促すことを目的とし開催した。

2) 講座の主なポイント

- ①イメージしたまち（働きたいまち、すごしやすいまち、楽しいまち）に必要な機能は何か。
- ②持続可能なまちにするために必要なことは何か。

3) 開催場所・スケジュール

	日	時間	開催場所
第1回	8月1日(月)	13時～15時	新城児童センター
第2回	8月13日(土)	13時～15時	大山児童センター
第3回	9月28日(水)	16時～17時30分	大山公民館
第4回	10月18日(火)	8時20分～11時45分 (1校時～4校時)	大山小学校

4) 出前講座開催

①新城児童センター

【実施概要】

夏休みの自由研究をテーマに、普天間飛行場跡地のまちづくりとSDGsについて考えるまちづくりワークショップを開催した。対象学年を小学校4年生～中学生（親子、兄弟参加可）とし、コロナウイルス感染症を鑑み時間は2時間以内とした。（小学1年生～3年生は親子同伴のみ受講可能とした）

また、グループワークではなく学校へ提出することを考慮し1人でイラスト作成を行った。

- 開催日時：令和4年8月1日(月) 13:00～15:00
- 参加者：12名
- 周知方法：普天間第二小学校、新城自治会、新城児童センター、若手の会へチラシを配布
- 募集期間：7/12(火)～7/20(水)

【講座の進め方】

- ①講座の内容説明
- ②プロモーションビデオ鑑賞
- ③普天間飛行場が返還されたあとのまちをイメージしよう。
 - ◆つくりたいまちのテーマを決める。
(例：働きたいまち、楽しいまち、暮らしやすいまち等)
 - ◆SDGsとイメージしたまちとの関連性について考える。
 - ◆普天間飛行場の地図に絵やイラストを貼り、将来のまちを作成する。
 - ◆まちの工夫したところを付箋に書きまちに貼る。
- ④アンケートに講座の感想を記入。

【プログラム】

時 間	講 座 内 容
12:30	受付開始
12:45	開場
13:00	講座開始（主旨説明）
13:10	プロモーションビデオ鑑賞
13:20	ワークショップ開始
14:40	ワークショップ終了
14:50	アンケート記入
15:00	講座終了

【会場の様子】



【作成したまち（一部抜粋）】



【アンケート結果】

◆学年

学年	人数（名）
1年	2
2年	2
4年	7
6年	1

◆性別

性別	人数（名）
男子	3
女子	9

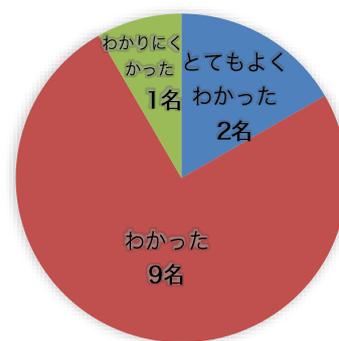
問1.あなたは「普天間飛行場跡地利用計画」を知っていますか？

	人数（名）
知っている	3
聞いたことがある	2
知らない	7

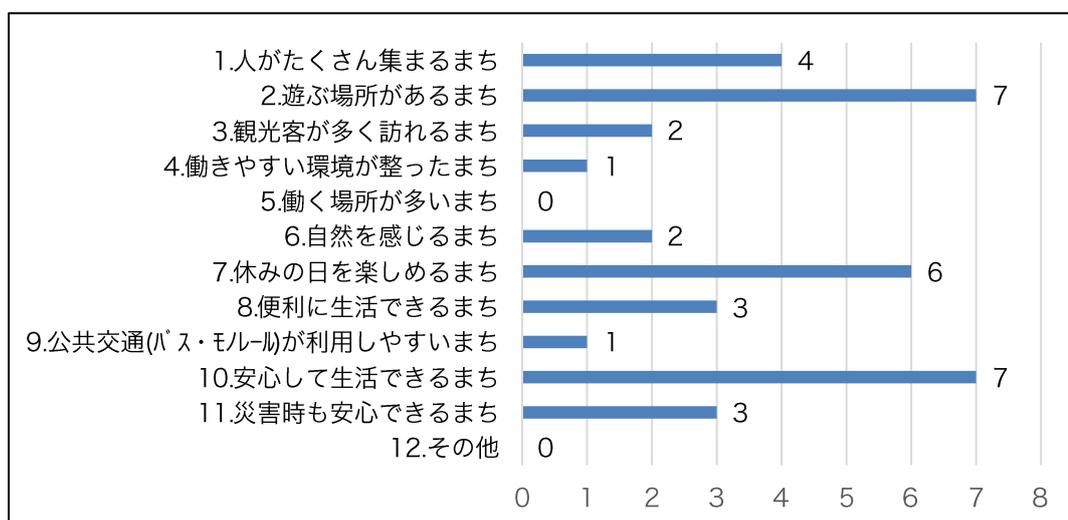


問2.プロモーションビデオを見て、「普天間飛行場跡地利用計画」についてわかりましたか。

	人数 (名)
とてもよくわかった	2
わかった	9
わかりにくかった	1



問3.普天間飛行場が返還されたあとにできるまちはどんなまちがいいですか？
(3つまで選択できます)



【感想 (一部抜粋)】

- ▶時間が足りなくて大変だったけど、バランスがいいとほめられたのでうれしかった。基地がなくなったら、私のみらいの宜野湾市がくれたらいいなあと思いました。
- ▶まちが返されて、将来自分が考えたまちになっていたら嬉しいです。とても楽しかったです。
- ▶最初は、難しそうだなと思っていたけど、やってみたら難しくありませんでした。楽しかったです。
- ▶今日はまちづくりをして、とても楽しかったです。

②大山児童センター

【実施概要】

夏休みの自由研究をテーマに、普天間飛行場跡地のまちづくりとSDGsについて考えるまちづくりワークショップを開催した。対象学年を小学校4年生～中学生（親子、兄弟参加可）とし、コロナウイルス感染症を鑑み時間は2時間以内とした。（小学1年生～3年生は親子同伴のみ受講可能とした）

また、グループワークではなく学校へ提出することを考慮し1人でイラスト作成を行った。

- 開催日時：令和4年8月13日（土）13：00～15：00
- 参加者：8名
- 周知方法：大山小学校、大山自治会、大山児童センター、若手の会へチラシを配布
- 募集期間：7/12(火)～7/20（水）

【講座の進め方】

- ①講座の内容説明
- ②プロモーションビデオ鑑賞
- ③普天間飛行場が返還されたあとのまちをイメージしよう。
 - ◆つくりたいまちのテーマを決める。
（例：働きたいまち、楽しいまち、暮らしやすいまち等）
 - ◆SDGsとイメージしたまちとの関連性について考える。
 - ◆普天間飛行場の地図に絵やイラストを貼り、将来のまちを作成する。
 - ◆まちの工夫したところを付箋に書きまちに貼る。
- ④アンケートに講座の感想を記入。

【プログラム】

時間	内容
12:30	受付開始
12:45	開場
13:00	講座開始（主旨説明）
13:10	プロモーションビデオ鑑賞
13:20	ワークショップ開始
14:40	ワークショップ終了
14:50	アンケート記入
15:00	講座終了

【会場の様子】



【作成したまち（一部抜粋）】



【アンケート結果】

◆学年

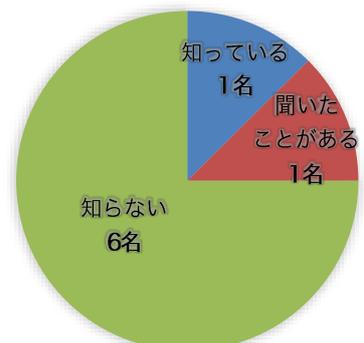
学年	人数（名）
1年	1
2年	1
4年	2
5年	2
6年	2

◆性別

性別	人数（名）
男子	3
女子	5

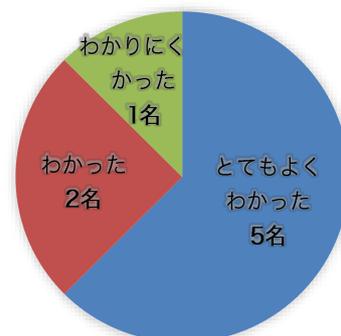
問1.あなたは「普天間飛行場跡地利用計画」を知っていますか？

	人数（名）
知っている	1
聞いたことがある	1
知らない	6

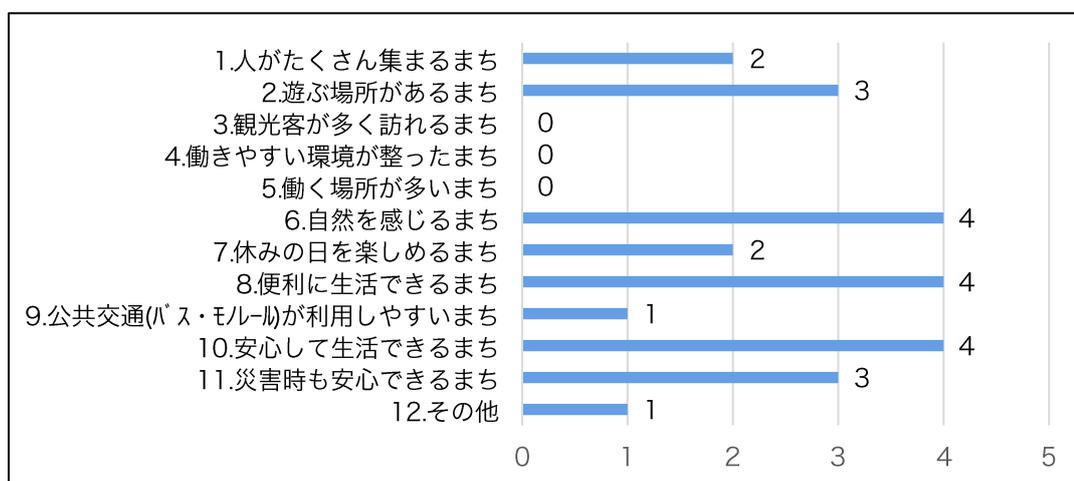


問2.プロモーションビデオを見て、「普天間飛行場跡地利用計画」についてわかりましたか。

	人数 (名)
とてもよくわかった	5
わかった	2
わかりにくかった	1



問3.普天間飛行場が返還されたあとにできるまちはどんなまちがいいですか？
(3つまで選択できます)



※12.その他：障害者でも安心して暮らせるまち

【感想 (一部抜粋)】

- ▶みらいの宜野湾市のまちをつくったことで、もっと宜野湾市について調べたり、まちづくりを知りたいと思いました。楽しかったです。
- ▶自分が考えたまちをつくれて良かったです。まちをつくったことは初めてで、とても楽しかった。普天間飛行場が返還されたら自分が考えたまちのようになってほしい。
- ▶まちづくりについて考え、まちをつくることは楽しいことが分かりました。また、安全・安心について工夫することは難しいことも分かりました。普天間飛行場がまちになることをすごく楽しみにしています。

③大山自治会

【実施概要】

大山自治会で実施している「放課後のこどもたちの居場所づくり」と連携してまちづくりワークショップを開催した。

対象学年は小学校4年生～中学生（親子、兄弟参加可）、時間を90分の1グループ2～4名のグループワーク形式で実施した。（小学1年生～3年生は親子同伴のみ受講可能とする。）

- 開催日時：令和4年9月28日（水）16：00～17：30
- 参加者：12名（内2名はサポートとして参加）
- 周知方法：大山自治会へチラシを配布
- 募集期間：8/26(金)～9/20（月）

【講座の進め方】

- ①講座の内容説明
- ②プロモーションビデオ鑑賞
- ③普天間飛行場が返還されたあとのまちをイメージしよう。
 - ◆グループに分かれてつくりたいまちのテーマを決める。
（例：働きたいまち、楽しいまち、暮らしやすいまち等）
 - ◆普天間飛行場の地図に絵やイラストを貼り、将来のまちを作成する。
 - ◆まちの工夫したところを付箋に書きまちに貼る。
- ④アンケートに講座の感想を記入。

【プログラム】

時間	内容
15:00	受付開始
15:30	開場
16:00	講座開始（主旨説明）
16:00	プロモーションビデオ鑑賞
16:15	ワークショップ開始
17:15	ワークショップ終了
17:20	アンケート記入
17:30	講座終了

【会場の様子】



【作成したまち（一部抜粋）】



【アンケート結果】

◆学年

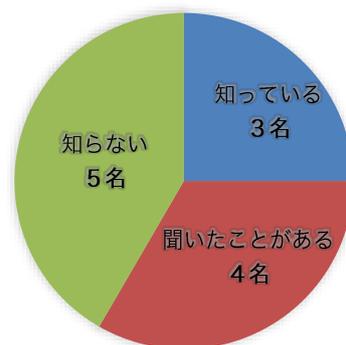
学年	人数(名)
小学1年	1
小学3年	2
小学4年	5
中学2年	2
中学3年(サポート)	1
大学1年(サポート)	1

◆性別

性別	人数(名)
男子	5
女子	7

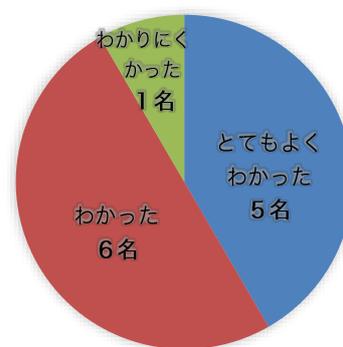
問1.あなたは「普天間飛行場跡地利用計画」について知っていますか。

	人数 (名)
知っている	3
聞いたことがある	4
知らない	5



問2.プロモーションビデオを見て、「普天間飛行場跡地利用計画」についてわかりましたか。

	人数 (名)
とてもよくわかった	5
わかった	6
わかりにくかった	1



【感想 (一部抜粋)】

- ▶まちづくりがとても楽しかった。普天間飛行場跡地利用計画について知ることができて良かったです。
- ▶普天間飛行場ができた経緯や、まちの中に歴史的な場所について知ることができ良かったです。
- ▶今まで漠然と理解していた普天間飛行場跡地利用計画ですが、ビデオを見て具体的な計画、基地の歴史などを知ることができました。グループでまちをつくって楽しかったです。(サポート：琉球大学1年生)
- ▶他の人の考えや自分に思いつかない発想に触れられて、面白かったです。貴重な経験となりました。(サポート：中学3年生)

④大山小学校(6年生)

【実施概要】

6学年全クラスを対象に、1クラス2コマ(90分)のまちづくりワークショップを開催した。

1クラス3～4名のグループに分かれて将来のまちのテーマ決めた後、跡地の白図にイラストを張り、まちづくりをおこなった。最後にグループ発表を行った。

- 開催日時：令和4年10月18日(火)
- 時間：8時20分～11時45分(1～4校時)
1組・2組(1～2校時)、3組・4組(3～4校時)
- 参加者：99名(6年生)

【講座の進め方】

- ①講座当日までにプロモーションビデオ鑑賞
- ②講座の内容説明
- ③普天間飛行場が返還されたあとのまちをイメージしよう。
 - ◆グループ(3名～4名)に分かれてつくりたいまちのテーマを決める。
(例：働きたいまち、楽しいまち、暮らしやすいまち等)
 - ◆普天間飛行場の地図に絵やイラストを貼り、将来のまちをイメージ作成する。
 - ◆まちの工夫したところを付箋に書きまちに貼る。
 - ◆グループ毎にまちの工夫したところを発表。
- ④アンケートに講座の感想を記入。

【プログラム】

1組・2組		3組・4組	
時間	内容	時間	内容
8:20	1校時開始 講座開始(主旨説明)	10:10	3校時開始 講座開始(主旨説明)
8:25	ワークショップ開始	10:15	ワークショップ開始
9:05	休み時間	10:55	休み時間
9:10	2校時開始 ワークショップ再開	11:00	4校時開始 ワークショップ再開
9:20	グループ発表	11:10	グループ発表
9:45	まちづくりワークショップ終了 アンケート記入(感想)	11:35	まちづくりワークショップ終了 アンケート記入(感想)
9:55	講座終了	11:45	講座終了

【作業風景】



【グループ発表（一部抜粋）】



【作成したまち（一部抜粋）】

暮らしやすいまち	楽しいまち
にぎやかなまち	楽しく働けて安心できるまち

【アンケート結果】

◆人数

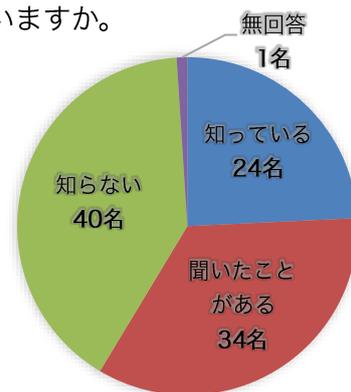
クラス	人数 (名)
1組	24
2組	24
3組	26
4組	25

◆性別

性別	人数 (名)
男子	48
女子	51

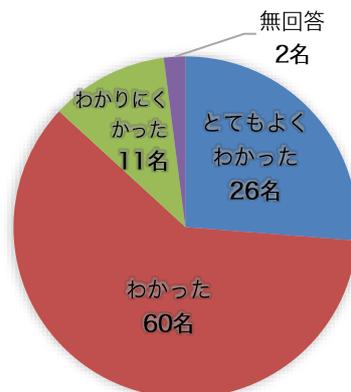
問1.あなたは「普天間飛行場跡地利用計画」を知っていますか。

	人数 (名)
知っている	24
聞いたことがある	34
知らない	40
無回答	1

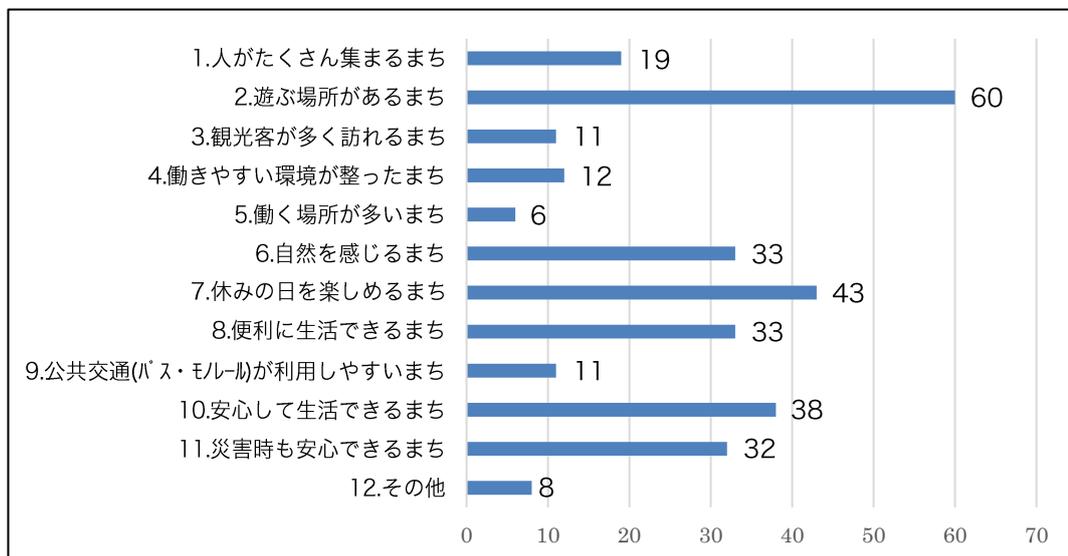


問2.プロモーションビデオを見て、「普天間飛行場跡地利用計画」についてわかりましたか。

	人数 (名)
とてもよくわかった	26
わかった	60
わかりにくかった	11
無回答	2



問3.普天間飛行場が返還されたあとにできるまちはどんなまちがいいですか？
(3つまで選択できます)



【感想（一部抜粋）】

- ▶まちづくりのことに、宜野湾市をどのようにしていきたいか各グループで考えました。私は普天間飛行場に家が近くて、ヘリコプターの音がたまにうるさいと思ったことがあります。家族で、「普天間飛行場がなくなったら、遊園地みたいなのを作りたいね」って話をしていたので、このような授業ができてよかったです。そして、この作ったまちが本当になれば良いと思いました。今日は、宜野湾市役所の方々の授業を学習できてよかったです。
- ▶普天間飛行場が返還されたら、今日イメージしたまちになってほしいです。今の宜野湾市は2つに分かれていると思います。普天間飛行場が返還されることによって、宜野湾市が1つになってほしいです。

5) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●普天間飛行場跡地利用計画の周知について

- ・児童・生徒へ向けて制作したプロモーションビデオの視聴や、未来の跡地のまちづくりを考えることで、普天間飛行場跡地利用に関する興味・関心を高めることができた。

●出前講座への参加促進

- ・夏休みの自由研究として活用できるようワークショップの内容を工夫したことにより、普天間飛行場跡地のまちづくりに興味がある児童・生徒の参加につながることができた。
- ・児童・生徒が提出した自由研究が先生方から好評だったことから、夏休み終了後の小学校での出前講座開催につなげることができた。

【今後の課題】

●出前講座の構成について

- ・楽しみながら未来の普天間飛行場跡地をイメージすることで、跡地のまちづくりの興味・関心を高めることができたが、次年度では文化財や基地内に残るみどり・公園等を活用したまちづくりについて考える内容も取り入れることが望ましい。

●周知対象の拡大について

- ・夏休みの自由研究をテーマとした講座を開催することで、普天間飛行場跡地利用計画に興味を持つ児童・生徒の参加が見込まれた。次年度以降も多くの児童センターや公民館等で開催することで、多くの児童・生徒に対しまちづくりへの周知や、小学校の出前講座開催につなげる必要がある。
- ・児童・生徒の付添いで参加した保護者の方々からも、楽しかったとの声が寄せられた。次年度は、保護者の参加も積極的に呼び掛けていくことにより、跡地のまちづくりへの興味・関心を持つ市民を増やしていくことが必要と考える。

(5) 情報誌「まち未来だより」の作成・発行

1) 取組み概要

市民に対して跡地利用に関する情報や行政の取組みについて情報の提供を目的として「まち未来だより」を作成し、市報への挟み込みで市内全世帯へ発行した。

2) 情報発信の内容

回数	発送時期	主な掲載内容
第14号	令和5年4月 市報へ挟み込み	○報告事項 ・パネル展キャラバン報告 ・まちづくり講座（全2回）概要報告 ・先進地視察会における先進地事例紹介 ・まちづくりワークショップの報告

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●市民目線のまちづくりの考え方に関する情報発信について

- ・市民に対し、まちづくりについて考える際の視点について、パネル展キャラバンやまちづくり講座、先進地視察会、まちづくりワークショップの取組みから得られた事例を通して発信することができた。

【今後の課題】

●市民が跡地利用のまちづくりに興味関心を持つための工夫

- ・市民に対して跡地利用に関する情報を提供し市民の関心を高めるため、情報支援ツールとして「まち未来だより」は重要である。そのため、誌面の見やすさ、内容については更なる工夫を凝らし、より多くの市民に見ていただけるよう努める必要がある。

「まち未来だより」では、普天間飛行場の跡地利用に関する取組みについてお伝えします。

パネル展キヤラバンを開催しました！

普天間飛行場の跡地利用に関する情報や取組みなどをパネル化し4つの会場で巡回展示しました。パネルでは跡地利用の検討内容や合意形成の取組み、子ども達が考えた「未来のまち」のイラスト、跡地利用に関するアンケート結果等を紹介しました。



沖縄国際大学 令和5年 1/16～1/23



宜野湾市民図書館 令和5年 2/1～2/8



宜野湾市立博物館 令和5年 2/10～2/19



宜野湾市役所 令和5年 2/24～3/3

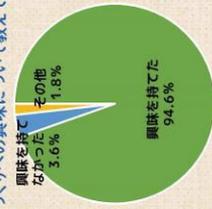
アンケート

来場者を対象にパネル展示内容についてアンケートを行いました。

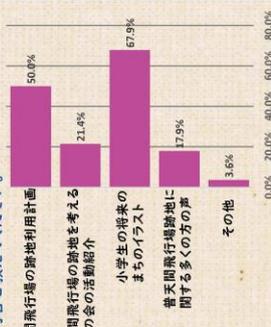
- Q. パネル展を通して普天間飛行場返還後のまちづくりへ興味を持った理由
 - 普天間飛行場の街の様子がイメージすることができた
 - 返還後どのような街になるか楽しみ
 - 今後成長し活動するかもしれない小学生たちの案も取り入れてみると面白い
 - 返還後の「みどりのまち」など、画期的だと思えることを知ることができた
 - 基地の跡地利用について初めて知ることができ、もっと調べてみたいと思った
 - 子ども達も色々なことを考えていることに驚いた

- Q. 自由意見
 - 普天間飛行場の跡地は商業施設に利用したほうが、街の人口が増え経済効果が期待できると思う。
 - 住みやすい住宅街ができたら良い。
 - 交通公共機関、特に電車の発展を推進したい。
 - 基地跡地予定の場所には、沖縄の歴史的に重要な遺産が多く残っているの、歴史の心場所を積極的に残してほしい。その上で、スマートシティの計画案を考えてほしいです。
 - 返還後にこんな（パネルで紹介している）良い街ができたらい。

Q. 今回のパネル展を通して普天間飛行場のまちづくりへの興味について教えてください。



Q. 今回紹介した取組みの中で良かったと思う内容を教えてください。



先進地視察会で学んだこと！

普天間飛行場跡地のまちづくりの参考とするため、情報の収集・蓄積を図ることを目的として県外先進事例の視察を行いました。

視察先：柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) (千葉県柏市)

柏の葉地区では、UDCKが中心となり都市デザインとマネジメンツの方法、仕組みの構築を進め、研究・教育とまちづくりをつなぐ社会連携・地域連携を推進している。



歩道には歩きたくない工夫が凝らされている。

駅まち空間と周辺市街地を一体的に移動可能とし、滞在しやすき空間をつくりあげられるための取組や留意している点は？
→**基本的には歩行者が歩きやすい細線を築き上げながら、少しずつでも改善していくことを徐々に取り組んで行くことが大切である。歩きやすく楽しくすること**ももちろんであるが、その沿道は非常に大切になってくるため、通り沿いの開発を行うにあたっては、店舗を入れてほしい、できるだけ外に開いた空間にしてほしいなど、**厳しめのガイドラインを策定しながら、ガチャガチャしていない明るい町にしていきたいと考えている。**

視察先：一般社団法人二子玉川エリアマネジメンツ (東京都世田谷区)

東京の西の玄関口に位置する二子玉川では、住民や企業など地域と行政と連携しつつ主体性と一体性を持って取り組むまちづくりが行われている。
多摩川河川敷では、**河川敷を活用したフードトラックやスペースのレンタルなど、水辺空間での新しい地域との交流拠点形成が二子川エリアマネジメンツ主体で行われている。**



多摩川河川敷

視察先：グリーンズプリングス (東京都立川市)

立川の新スポットとして、旧国有地跡地(旧立川飛行場)に建てられたGREENSPRINGSは、商業施設やホテル、多機能ホール、オフィス等で構成された大規模複合施設である。



〈昼〉



〈夜〉

・客層率は最大500%確保できるが、50%しか使用しておらず、空を大事にした開発を実施した。その結果、**開放感のある空間が生まれ、空や風、緑を感じながら過ごせるウェルビーイングを実現させた。**
・24時間楽しめるまちとして、**極大24時間開放している。照明にこだわったライトデザインで、昼と夜の印象が違ような施設をつくりあげている。**その結果、**早朝は散歩やエクササイズ、昼はランチやカフェ、夜はゆっくりと語り、お酒を楽しむなど、様々な年齢層やシーンに利用される空間**となっている。

県外先進事例の視察を通して、地域や企業、大学、行政と連携し、地域の資源を活かしたまちづくりを進めたいという新たなまちづくりの手法等の情報の収集ができました。

【「まち未来だより」発行先】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野高一丁目1番1号
電話 098-893-4401 (直通) FAX 098-892-7022
普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページが情報提供窓口
宜野湾市基地政策部まち未来課でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る変更、ご意見を伝える場としてお気軽にご活用ください。

図：「まち未来だより」vol.14 (表画)

まちづくり講座を開催しました！

まちづくり講座とは？

普天間飛行場返還後のまちづくりにおいては、地権者だけではなく、市民の皆さまの参加がとても重要になります。そのため、本市では、まちづくりについて学べる機会のひとつとして「まちづくり講座」を開催（2回）いたしました。

普天間飛行場周辺の公園や公共空間を活用した「今からできること」

第1回 令和5年1月21日（土） 主な内容：まちあるき、ワークショップ

普天間飛行場は全面返還が合意されており、跡地では活用できる自然・歴史を公園として確保する「みどりのまちづくり」の実現に向けて検討を進めています。第1回は、伊佐地区周辺のまちを歩き、公園や公共空間を活用した「今からできること」について話し合いを行いました。



【まちあるきの様子】

【ワークショップの様子】

【公共空間の活用アイデア】

- ふんしんせらせらぎ通りの活用意見
 - ①四季折々のイベント
 - ②夕涼み会
 - ③マルシェの開催
 - ④魚のつかみ取り
 - ⑤郷土賞受賞をアピールした観光客の呼び込み 等
- 伊佐児童公園の活用意見
 - ①グラウンドゴルフ大会
 - ②子ども達の小さな運動会
 - ③青空会議
 - ④フリーマーケット
 - ⑤児童キャンプ体験 等

第2回 令和5年2月17日（金） 内容：講演会、質疑応答

第2回では居心地の良いまちをつくる活動を行っている講師をお招きし、公共空間を活用した事例を交えながら講演いただきました。参加者からの質問等に対して回答頂きました。

講師紹介：山口大学 大学院創成科学研究科工学系学域 感性デザイン分野 建築学専攻 准教授 宋俊煥氏（せん、しゅん、くわん）

- 2016年頃より山口県宇部市の中心市街地において公共空間を活用した地域活性化に携わり、現在「若者クリエイティブコンテナ（若部）」代表等を務める。
- まとめ**
- 空間デザインと政策・制度と並行して短い期間でできる機動的なまちづくりの必要性、マネジメント手法が必要になってきている。
 - 行政がデザインして民間が利用・活用するというのでは中々利用されない。行政と民間、専門家が一緒にデザイン・マネジメントをしていく。



【講演会の様子】

公園の事例をどおして管理のあり方を説明している様子



まちづくり講座第1回2回の内容等については、YouTubeにてまとめて配信しておりますのでご覧ください。

令和5年5月までの公開予定しております。

まちづくり講座2回を通して、伊佐区の公共空地の場所や活用のアイデアを把握でき、実際に取組みに展開することで賑わいの創出に繋がることが学べました。

まちづくりワークショップを開催しました！

ワークショップの概要

普天間飛行場跡地利用について、これまでの取組み内容を紹介し、児童・生徒に返還後のまちづくりについて考えてもらう機会を促すことを目的して4つの会場で開催いたしました。

実施日・開催場所

日にち	開催場所
R4/8/1	新城児童センター
R4/8/13	大山児童センター
R4/9/28	大山公民館
R4/10/18	大山小学校

実施の主なポイント

- ① まち（働きたいまち、すごしやすいまち、楽しいまち）に「必要となる機能」についてグループで話し合う。
- ② 普天間飛行場跡地の「みらいのまち」をイメージしてもらうことで、普天間飛行場跡地利用計画について周知を図りつつ、まちづくりの興味をもってもらう。

ワークショップの様子



子ども達がイメージした将来のまち（一部）



【結果（感想）一部】

- 普天間飛行場ができてきた経緯や、まちの中に歴史的な場所について知ることができて良かった。
- 今まで漠然と理解していた普天間飛行場跡地利用計画だが、ビデオを見て具体的な計画、基地の歴史などを知ることができた。グループでまちをつくって楽しかった。
- みらいの宜野湾市のまちをつくることで、もっと宜野湾市について調べたり、まちづくりを知りたいと思った。楽しかった。
- 自分が考えたまちを作れたよかった。まちをつくることは初めてで、とっても楽しかった。普天間飛行場が返還されたら自分が考えたまちのようになってほしい。
- 他の人の考えや自分に思いつかない発想に触られて、面白かった。貴重な経験となった。
- 最初は難しそうだなと思っていただけ、やってみたら難しくなかった。

図：「まち未来だより」vol.14（中面）